

エコアクション21 環境経営レポート

蓄積された技術に思いやりを込めます



活動期間 2020年4月1日～2021年3月31日

発行：2021年6月22日 第4版



総合建設業
株式会社 西村建設

〒 861-4703

熊本県下益城郡美里町畝野2900番地

TEL 0964-48-0208

FAX 0964-48-0513

目 次

1.	社是・今日の目標	P 1
2.	対象範囲、環境経営レポートの対象期間及び発行日	P 2
3.	組織の概要	P 3
4.	環境経営方針	P 5
5.	環境管理組織体制	P 6
6.	環境経営目標	P 7
7.	環境経営計画	P 8
8.	環境経営目標の実績	P 9
9.	環境経営計画の取組結果とその評価	P 12
10.	次年度の環境経営目標及び環境経営計画	P 13
11.	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	P 14
12.	代表者による全体評価と見直し結果	P 15
13.	取組状況	P 16
14.	資料1（休日出勤・残業時間数一覧表）	

社 是

～ 我々のことば ～

- ◇ 我々は建設の使命に徹して社会の信頼に答える
- ◇ 我々は業務の改善を図って社運の発展に努める
- ◇ 我々は心身の健全を保って明朗な生活を営む

今日の目標

- ◇ 我々は、今日一日工事の安全と進捗に積極的に努めよう
- ◇ 我々は、総員管理者となって目を光らせて「ムダ」を省こう



2 対象範囲、環境経営レポートの対象期間及び発行日

- | | |
|--------------------|-------------------------------------|
| (1) 対象範囲 | 会社（全組織・全活動） |
| (2) 環境経営レポート対象期間 | 2020年4月1日～2021年3月31日
(1ヶ年間)(第4版) |
| (3) 環境経営レポート発行日 | 2021年6月22日 |
| (4) 次回環境経営レポート発行予定 | 2022年 7月予定 |
| (5) 作成責任者 | 環境管理責任者 上村 資誠 |

3 組織の概要

◆ 商号 株式会社 西村建設

◆ 代表者 代表取締役 西村 潤次郎
環境管理責任者 上村 資誠

◆ 本社 〒861-4703 熊本県下益城郡美里町畝野2900番地
TEL0964-48-0208 FAX0964-48-0513
E-mail nishimura@j-nishimura.co.jp
(担当者 奈須)

◆ 阿蘇営業所 〒869-2301 熊本県阿蘇市内牧105番地
* 阿蘇営業所の事業活動については、全て本社で行っているため、認証・登録範囲には含まない。

◆ 付属施設 機材置場
熊本県下益城郡美里町畝野2897番地1
敷地429.75m² 鉄骨スレート2階建278.23m²

◆ 許可 特定建設業の許可 熊本県知事の許可 許可(28)第1465号
許可日 令和3年5月2日
有効期間 令和8年5月1日
土木工事業 管工事業 舗装工事業
とび・土工工事業 水道施設工事業
解体工事業
一般建設業の許可 熊本県知事の許可 許可(28)第1465号
許可日 令和3年5月2日
有効期間 令和8年5月1日
建築工事業

◆ 事業内容
○ 土木構造物の施工
主として公共工事(国・熊本県・美里町等)
○ 建築構造物の施工
主として公共工事(熊本県・美里町等)

◆ 創業 昭和36年7月14日
(会社成立 昭和51年1月30日)

◆ 資本金 5,000万円

◆ 事業規模

* 事業年度は10月から翌年9月

	2016年度	2017年度	2018年度
完工事高	5億4498万円	7億504万円	9億5482万円
従業員数	31人	36人	35人
事業所敷地面積	1802m ²	1802m ²	1802m ²
事業所延床面積	558m ²	558m ²	558m ²

	2019年度	2020年度
完工事高	14億2899万円	12億6987万円
従業員数	28人	29人
事業所敷地面積	1802m ²	1802m ²
事業所延床面積	558m ²	558m ²

◆ 保有機械等

重機

2021年3月31日現在

重機種別	台数	重機種別	台数
大型タイヤショベル	1台	小型タイヤショベル	3台
パワーショベル	13台	振動ローラー	2台
ブルドーザ	1台	2tワピック	2台
ユニック車	2台	計	24台

* 前年度比±0台

自動車

2021年3月31日現在

車両種別	台数	車両種別	台数
大型ダンプ	2台	4tダンプ	4台
2tダンプ	1台	大型運搬車	1台
普通乗用車	11台	普通貨物車	1台
軽四乗用車	1台	軽四貨物車	11台
自動二輪車	1台	計	33台

* 前年度比-9台

4 環境経営方針

【基本理念】

当社は、社会基盤を担う建設業の一員として、環境関連法規を遵守し、事業活動における環境負荷の低減と地球環境保全の重要性を認識し、事業活動を通じて継続的に循環型社会の構築に貢献し、持続可能な社会の実現を図っていきます。

【基本方針】

- 1 事業活動における二酸化炭素削減のため節電・化石燃料等の削減に努めるとともに節水にも努めます。
- 2 事業活動における廃棄物のリサイクルと適正処理に努めます。
- 3 省エネ・省資源型建設機械の積極的導入利用に努めます。
- 4 地域社会とのコミュニケーションを図り、社会貢献活動への積極的な参加に努めます。
- 5 事業活動での使用物品・事務用品等グリーン購入の促進に努めます。
- 6 事業活動における地産地消に努めます。
- 7 社員の一人一人が、環境保全活動の重要性を自覚し、その活動を継続的に取組み、常に環境に対する意識と知識の向上に努めます。

この方針を全従業員に周知し自らの役割を認識させるとともに、環境経営レポートを公開します。

2018年4月1日制定

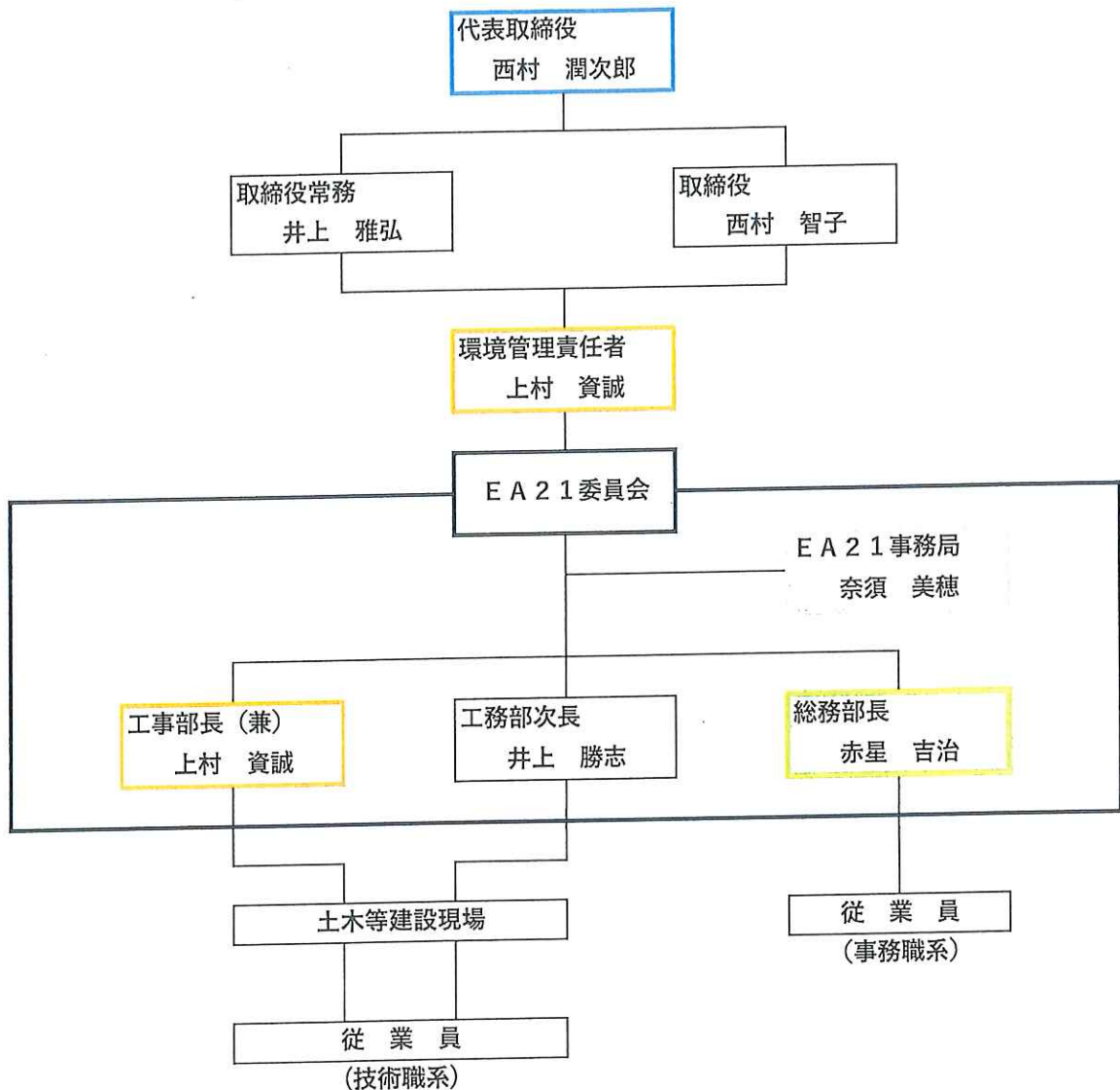
2020年1月6日改訂

株式会社 西村建設

代表取締役 西村 潤次郎



5 環境管理組織体制



職名	役割・責任・権限
代表者 (代表取締役)	: 環境経営の総括責任者 : 環境方針を定め周知する : 環境経営責任者を定める : 資源の調達 : 経営計画書の承認と計画及び取組の見直し : 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	: 環境経営計画書の構築・運用管理 : 関連法規の確認 : 経営計画書の立案 : 実施状況の代表者への報告 : 環境経営レポートの確認 : 教育訓練の立案 : 環境コミュニケーションの確認
E A 2 1 事務局	: システム運用上の事務処理 : 必要なデータの集計・分析
委員会 (部門長)	: 環境経営計画の実施及び達成状況の報告 : 教育訓練の実施 : 問題点の発見・是正・予防措置の実施
従業員	: 環境経営方針の理解 : 自主的・積極的な環境経営への参加

6. 環境経営目標

項目	2017年度	2018年度	2019年度	2019年度	2020年度	2021年度
	基準年	実績値	目標	実績値	目標	中期目標
	4月～翌年3月	4月～翌年3月	4月～翌年3月	4月～翌年3月	4月～翌年3月	4月～翌年3月
ガソリン使用量 L	28,216.60	30,960.00	27,934.43	35,095.88	27,655.09	27,378.54
削減率		9%	-1%	24%	-1%	-1%
灯油使用量 L	1732	411	1,714.68	8,669.00	1,697.53	1,680.56
削減率		-23%	-1%	400%	-1%	-1%
軽油使用量 L	96,202.80	69,596.00	95,240.77	82,443.68	94,288.36	93,345.48
削減率		-28%	-1%	-14%	-1%	-1%
電力使用量 Kwh	43,481	39,212.90	43,046.19	31,656.58	42,615.73	42,189.57
削減率		-9%	-1%	-27%	-1%	-1%
液化石油ガス (LPG) Kg	26.5	27.3	26.24	30.84	25.97	25.71
削減率		3%	-1%	16%	-1%	-1%
二酸化炭素排出量 Kg - CO2	342,505.49	273,783.87	339,080.44	330,462.45	335,689.63	332,332.73
削減率		-20%	-1%	-3%	-1%	-1%
水使用量 m3	994	799	984.06	778	974.22	964.48
削減率		-19%	-1%	-22%	-1%	-1%
一般廃棄物排出量 Kg	370	340	366.3	344.57	362.64	359.01
削減率		-8%	-1%	-7%	-1%	-1%
産業廃棄物排出量 t	3,007.66	1,581.68	2,977.58	1,694.21	2,947.81	2,918.33
削減率		-47%	-1%	-44%	-1%	-1%

《参考》

- * 電気事業者の二酸化炭素排出係数は、九州電力2017年公表の調整後排出係数0.463kg-CO2/kwhを使用しています。
- * 取組期間は2020年4月1日～2021年3月31日の1ヶ年です。
- * 各年度の目標は、2017年度を基準として各年度1%減として目標設定しています。
- * 2021年度以降は、2020年度を基準年度として新たに二酸化炭素削減目標を設定します。

7 環境経営計画（2020年度）

2020年4月1日～2021年3月31日

項目		活動内容	実施責任者	担当者	
二酸化炭素削減	電気使用量削減 (1%削減)	不要な照明の消灯	継続	西村智子	E A 2 1 委員会
		オフィス機器の節電モード	継続		使用者
		長時間使用しないOA機器の主電源オフ	継続		使用者
		空調の適温化（冷房27度・暖房21度）の徹底	継続		E A 2 1 委員会
		空調フィルターの定期清掃（5～9月、12～2月につき月1回）	継続		総務
		トイレ・洗面所は必要時のみ点灯	継続		使用者
		太陽光発電設備の導入による電気の太陽エネルギー利用	継続		E A 2 1 委員会
		休日出勤・残業の削減	追加		現場責任者
	燃料使用量削減 (1%削減)	アイドリングストップの徹底、急発進・急加速の禁止	継続	上村資誠	使用者
		タイヤの空気圧の定期チェック（給油時月1回）	継続		使用者
		法定速度の遵守・過積載防止	継続		使用者
		車両の自主点検の実施	継続		使用者
		低燃費重機・車両等の導入と優先使用	継続		現場責任者
		施工の効率化等による工期の短縮	追加		現場責任者
一般廃棄物の削減	休日出勤・残業の削減	追加	現場責任者		
	可能な限り両面コピー・裏面コピーの実施	継続	丸山るみ	使用者	
	ゴミの分別による減量化	継続		総務	
新聞・雑誌等の紙類は古紙再生へ	継続	総務			
産業廃棄物のリサイクル率の向上	適正管理・適正処理	継続	井上雅弘	現場責任者	
	分別の徹底によるリサイクル率の向上	継続		現場責任者	
水使用量の削減 (1%削減)	こまめに蛇口をしめる	継続	奈須美穂	使用者	
	垂れ流しの状態の禁止	継続		E A 2 1 委員会	
	水道配管からの漏水の定期点検	継続			
グリーン商品の利用促進	グリーン商品の優先購入	継続	丸山るみ	総務	
地産地消の取組み	県産材・町産採石の積極的利用（型枠工事等）	継続	井上雅弘	現場責任者	
環境配慮工法・製品の使用	河川汚濁防止対策	継続	井上雅弘	現場責任者	
	排ガス対策・低燃費重機等の優先使用	継続			
	粉塵発生低減	継続			
地域・社会貢献活動	森林整備・ロードクリーン活動などへの積極的参加	継続	上村資誠	現場責任者	

8. 環境経営目標の実績

(1) 会社						
項目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2020年度	評価 (達成率)
	基準年	実績値	実績値	目標	実績値	
	4月～翌年3月	4月～翌年3月	4月～翌年3月	4月～翌年3月	4月～翌年3月	
ガソリン使用量 L	28,216.60	30,960.00	35,095.88	27,655.09	33,144.62	83%
削減率		9%	24%	-1%	17%	△
灯油使用量 L	1,732	411	8,669.00	1,697.53	6,318.00	27%
削減率		-23%	400%	-1%	265%	×
軽油使用量 L	96,202.80	69,596.00	82,443.68	94,288.36	66,882.65	141%
削減率		-28%	-14%	-1%	-30%	○
電力使用量 Kwh	43,481	39,212.90	31,656.58	42,615.73	30,480.75	140%
削減率		-9%	-27%	-1%	-30%	○
液化石油ガス (LPG) Kg	26.5	27.3	30.84	25.97	34.8	75%
削減率		3%	16%	-1%	31%	×
二酸化炭素排出量 Kg-CO2	342,505.49	273,783.87	330,462.45	335,689.63	279,401.56	120%
削減率		-20%	-3%	-1%	-18%	○
水使用量 m3	994	799	778	974.22	575	169%
削減率		-19%	-22%	-1%	-42%	○
一般廃棄物排出量 Kg	370	340	344.57	362.64	341.24	106%
削減率		-8%	-7%	-1%	-7%	○
産業廃棄物排出量 t	3,007.66	1,581.65	1,694.21	2,947.81	843.27	350%
削減率		-47%	-44%	-1%	-72%	○

(2) 本社

項目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2020年度	評価 (達成率)
	基準年	実績値	実績値	目標	実績値	
	4月～翌年3月	4月～翌年3月	4月～翌年3月	4月～翌年3月	4月～翌年3月	
ガソリン使用量 L	4,227.30	6,893.65	6,257.16	4,143.18	6,935.20	60%
削減率		63%	48%	-1%	64%	×
灯油使用量 L	884	0	0	0	0	
削減率						
電力使用量 Kwh	26,894	26,796.90	25,268.58	26,358.81	22,318.75	118%
削減率		-3%	-6%	-1%	-17%	○
液化石油ガス (LPG) Kg	26.5	27.3	30.84	25.98	34.8	75%
削減率		3%	16%	-1%	31%	×
二酸化炭素排出量 Kg-CO2	24,548.69	28,493.63	26,308.47	24,060.17	26,527.64	91%
削減率		16%	7%	-1%	8%	○
水使用量 m3	994.00	799	778	974.22	575	169%
削減率		-19%	-22%	-1%	-42%	○
一般廃棄物排出量 Kg	370	340	344.57	362.64	341.24	106%
削減率		-8%	-7%	-1%	-8%	○

(3) 現場

項目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2020年度	評価 (達成率)
	基準年	実績値	実績値	目標	実績値	
	4月～翌年3月	4月～翌年3月	4月～翌年3月	4月～翌年3月	4月～翌年3月	
ガソリン使用量 L	23,989.30	24,066.35	28,838.72	23,511.92	26,209.42	90%
削減率		3%	20%	-1%	9%	○
灯油使用量 L	1,732	411	8,669.00	1,697.53	6,318.00	27%
削減率		-51%	400%	-1%	265%	×
軽油使用量 L	96,202.80	69,596.00	82,443.68	94,288.36	66,882.65	141%
削減率		-28%	-14%	-1%	-30%	○
電力使用量 Kwh	16,587	12,416.00	6,388	16,256.92	8,162.00	199%
削減率		-25%	-61%	-1%	-51%	○
二酸化炭素排出量 Kg-CO2	317,956.80	245,290.24	304,153.98	311,629.46	252,873.92	123%
削減率		-23%	-4%	-1%	-20%	○
産業廃棄物排出量 t	3,007.66	1,581.65	1,694.21	2,947.80	843.27	350%
削減率		-47%	-44%	-1%	-72%	○

《評価の基準》

100%以上：○ 80%以上100%未満：△ 80%未満：×（是正措置）

《参考》

- * 購買電力の二酸化炭素排出係数は九州電力2017年公表の調整後排出係数0.463kg-CO₂/kwhを使用しています。
- * 取組期間は、2020年4月1日～2021年3月31日の1ケ年です。
- * 2018年度・2019年度の各実績実績値は2017年度を基準年とした比較です。

《目標達成度評価》

1. 本社のガソリンの使用量の増加は、工事受注のために県下全域の国の出先機関・県の出先振興局・市・町に対する営業活動を積極的に行ったこと等が原因で未達成となったが、現場の車両にハイブリッド車両を導入するとともに、現場の車両の見直し整理・削減を図ったことにより現場のガソリン使用量の増加が押えられ、また、社長車にEV車を導入し、加えて排ガス適合重機等の積極的使用により軽油の使用量も減少したことにより二酸化炭素排出削減目標を達成することができた。
2. 灯油の使用量の増加は、緑川ダム管理所発注の塵芥処理等工事を受注しているが、工期内のダム貯水量の調節により流木の集積作業が決定されることから未乾燥の流木の焼却が余儀なくされる場合灯油の消費量が大幅増になることとなり、基準年に比して今回も灯油の消費量が増加したものです。
3. 液化石油ガス（LPG）の増加は、受注工事の増加等に加えて、新型コロナウイルス感染防止のため少人数で数回に分けての工事打合せ等を実施したことにより湯沸かしが増えたことが考えられます。
4. 電力の使用量の減少については、事務所の蛍光灯のLED化や省エネエアコンへの交換等に取り組んだ結果と考えられます。
5. 2021年度以降は、2020年度実績値を基準年として3ケ年間計画で二酸化炭素排出量削減に取り組みます。

9 2019年度環境経営計画の取組み結果とその評価

項目	担当者	活動内容	取組結果	評価	備考	
C O 2 削減	E A 2 1委員会	不要な照明の消灯	達成	○		
	使用者	オフィス機器の節電モード	達成	○		
	使用者	長時間使用しないOA機器の主電源オフ	達成	○		
	E A 2 1委員会	空調の適温化（冷房28度・暖房20度）の徹底	達成	○		
	総務	空調フィルターの定期清掃（5～9月、12～2月につき月1回）	達成	○	空調設備については全設備交換済み	
	使用者	トイレ・洗面所は必要時のみ点灯	達成	○		
	E A 2 1委員会	蛍光灯のLEDへの順次交換	達成	○	事務所全蛍光灯をLEDへ交換済み	
	E A 2 1委員会	太陽光発電設備の導入による電気の太陽エネルギー利用	達成	○		
	燃料使用量削減 (1%削減)	使用者	アイドリングストップの徹底、急発進・急加速の禁止	達成	○	
		使用者	タイヤの空気圧の定期チェック（給油時月1回）	達成	○	
		使用者	法定速度の遵守・過積載防止	達成	○	
		使用者	車両の自主点検の実施	達成	○	
現場責任者		低燃費重機・車両等の導入と優先使用	達成	○	ハイブリッド車両・排ガス基準適合重機等を順次導入中	
一般廃棄物の削減	使用者	可能な限り両面コピー・裏面コピーの実施	達成	○		
	総務	ゴミの分別による減量化	達成	○		
	総務	新聞・雑誌等の紙類は古紙再生へ	達成	○		
産業廃棄物のリサイクル率の向上	現場責任者	適正管理・適正処理	達成	○		
	現場責任者	分別の徹底によるリサイクル率の向上	達成	○		
水使用量の削減 (1%削減)	使用者	こまめに蛇口をしめる	達成	○		
	使用者	垂れ流しの状態の禁止	達成	○		
	E A 2 1委員会	水道配管からの漏水の定期点検	達成	○		
グリーン商品の利用促進	総務	消耗品・事務用品等のエコ商品の優先購入	達成	○		
地産地消の取組み	現場責任者	県産材・砕石等の積極的利用（型枠工事等）	達成	○		
環境配慮工法・製品の使用	現場責任者	河川汚濁防止対策	達成	○		
		排ガス対策・低燃重機等の使用	達成	○		
		粉塵発生の低減	達成	○		
地域・社会貢献活動	現場責任者	森林整備・ロードクリーン活動などへの積極的参加	達成	○	森林環境保全活動等に積極的に参加	

○：評価できる △：まずまず評価できる

* 評価者 環境管理責任者 上村資誠

* 確認・評価は社内検査や安全パトロールの実施時などで確認した。

2020年4月6日

《総評》

1. 全取組において、この1年間ほぼ達成することができた。
2. 会社事務所の蛍光灯はLEDへの交換が完了したので次年度からの取組みからはずすこととした。
3. 空調設備については、1階・2階のそれぞれの事務所設置の5台のエアコン全て省エネタイプに交換したので次年度からの取組みからはずすこととした。
4. 重機については、低騒音・排ガス基準適合重機1台、また車両についてもハイブリッド車両3台・排ガス規制作業車両1台を導入した。今後も順次ハイブリッド車両へと交換していきます。
5. 地域・社会貢献活動については、環境保全活動の一環としてのロードクリーン・森林・河川それぞれのボランティアに積極的に参加した。今後も積極的参加を継続します。

10 次年度（2020年度）の環境経営目標及び環境経営計画

* 働き方改革の実践から次年度の活動内容に休日出勤・残業の削減と施工の効率化等による工期短縮を加え、前年度の取組内容を継続していくことにします。

2020年4月1日～2021年3月31日

項目		活動内容	実施責任者	担当者
C O 2 削 減	電気使用量削減 (1%削減)	不要な照明の消灯	継続	E A 2 1 委員会
		オフィス機器の節電モード	継続	使用者
		長時間使用しないOA機器の主電源オフ	継続	使用者
		空調の適温化（冷房28度・暖房20度）の徹底	継続	E A 2 1 委員会
		空調フィルターの定期清掃（5～9月、12～2月につき月1回）	継続	総務
		トイレ・洗面所は必要時のみ点灯	継続	使用者
		太陽光発電設備の導入による電気の太陽エネルギー利用	継続	E A 2 1 委員会
		休日出勤・残業の削減	追加	現場責任者
	燃料使用量削減 (1%削減)	アイドリングストップの徹底、急発進・急加速の禁止	継続	使用者
		タイヤの空気圧の定期チェック（給油時月1回）	継続	使用者
		法定速度の遵守・過積載防止	継続	使用者
		車両の自主点検の実施	継続	使用者
		低燃費重機・車両等の導入と優先使用	継続	現場責任者
		施工の効率化等による工期の短縮	追加	現場責任者
休日出勤・残業の削減		追加	現場責任者	
一般廃棄物の削減	可能な限り両面コピー・裏面コピーの実施	継続	丸山るみ	使用者
	ゴミの分別による減量化	継続	丸山るみ	総務
	新聞・雑誌等の紙類は古紙再生へ	継続	丸山るみ	総務
産業廃棄物のリサイクル率の向上	適正管理・適正処理	継続	井上雅弘	現場責任者
	分別の徹底によるリサイクル率の向上	継続	井上雅弘	現場責任者
水使用量の削減 (1%削減)	こまめに蛇口をしめる	継続	奈須美穂	使用者
	垂れ流しの状態の禁止	継続		使用者
	水道配管からの漏水の定期点検	継続		E A 2 1 委員会
グリーン商品の利用促進	グリーン商品の優先購入	継続	丸山るみ	総務
地産地消の取組み	県産材・町産採石の積極的利用（型枠工事等）	継続	井上雅弘	現場責任者
環境配慮工法・製品の使用	河川汚濁防止対策	継続	井上雅弘	現場責任者
	排ガス対策・低燃費重機等の使用	継続		
	粉塵発生の低減	継続		
地域・社会貢献活動	森林整備・ロードクリーン活動などへの積極的参加	継続	上村資誠	現場責任者

1 1 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟の有無

◎ 環境関連法規遵守の確認と評価

遵守確認日 2021年4月10日

関連法規制名	要求事項	確認事項	遵守評価
廃棄物処理法	一般廃棄物 ：事務所ゴミの分別（6）	資源ゴミの分別	○
	産業廃棄物（14）	委託先の許可確認	○
		委託契約の確認	○
		委託者の適正処理確認	○
	収集・運搬（14）	契約状況の確認	○
		有効期限の確認	○
		車両確認	○
保管場所の確認		○	
建設リサイクル法	特定建設資材の分別（9）・再資源化（16）	契約書への明示及び確認	○
水質汚濁防止法	事故発生時の応急対策及び関係機関への届出（14）	事故発生の有無と処置方法 ・汚濁防止フェンスの設置 ・吸着マットによる河川流出油除去 ・中和剤散布と土砂撤去による油の除去	○
フロン排出抑制法	フロンガスの漏出防止（16）	簡易点検（1回/3ヶ月）	○
オフロード法	建設機械による大気汚染防止（3）	排出ガス対策機械の使用	○
グリーン購入法	環境負荷の少ない製品の優先利用（5）	購入品種・購入率の確認	○
建設工事公衆災害防止対策要綱	環境保全（公衆災害の防止）（113）	現場の整理整頓による塵埃等対策	○
騒音規制法	敷地境界で規制基準を満たすこと（14）	特定建設作業届け	該当なし
振動規制法	敷地境界で規制基準を満たすこと（14）	特定建設作業届け	該当なし
浄化槽法	浄化槽管理者による点検（10）（11）	保守点検1回/3ヶ月 定期検査1回/年	○
熊本県生活環境の保全等に関する条例	水質（30）・騒音（44）・振動（51）	適宜届け出実施	○

* 確認者は環境管理責任者上村資誠

* 注（）内は関係条項を示します

◎ 建設にかかる環境関連法規への違反、訴訟等の有無

今年度も現時点まで、環境関連法規への違反・訴訟等はありません。また関係当局からの違反などの指摘、地域住民からの苦情等もありません。

1.2. 代表者による全体評価と見直し結果

2021年6月10日

代表者による見直し	
代表取締役 西村潤次郎	
◎ 環境方針について	1. 現時点では取組みの効果が現れつつあるので特に本方針については大幅な変更の必要はないと判断する。
◎ 目標・経営計画について	<p>1. 2017年から3カ年計画で二酸化炭素削減に取り組んできたが、その努力の結果削減目標を達成することができた。来年度以降は、今年度の実績値を基準として、さらに3カ年計画に基づき目標達成のため積極的・計画的に二酸化炭素削減に取り組むこととする。</p> <p>2. 活動の数値は、工事量・工事内容・工事現場等によって左右される項目もあるが、施工の効率化等を図り、環境経営計画を継続して本計画に積極的に取り組むこととする。</p> <p>3. 公共工事での環境配慮事項は特に重要であり、現場担当者は創意工夫をしながら施工の効率化による工期の短縮等さらなる現場監督・作業員への指示を徹底し取り組み強化を図ることとする。</p> <p>4. 現場の化石燃料使用量は工事の特性や工事場所等によって大きく変化するが、引き続きその削減とリサイクル率の向上並びに環境配慮製品の使用に努めることとする。</p> <p>5. これまで社内のネットワークが不安定であったため、NASネットワークシステムを導入し、常時社員全員がE A 2 1レポート等の関係資料を閲覧できるシステムを構築した。</p>
◎ 実施体制について	○ 現体制で機能しているので特に変更の必要はないと判断する。
◎ 周囲の変化	<p>: 外部コミュニケーション</p> <p>地域住民等からの苦情等はなかった。</p>
《総括》	<p>1. 現状の取組みを継続しながら、当社としても実践中の働き方改革にも配慮した更なる活動を行うこと。</p> <p>2. 今ある資源を大切に使用するのはもちろんであるが、社員の力量向上を図り、創意工夫による環境に優しい施工や工期短縮などの現場管理を徹底しコスト削減に取り組むこと。</p> <p>3. 前年度から今年度にかけて環境配慮建設重機それにハイブリッド・排ガス・EV車両への交換・導入を行ったので、更なる燃費向上に努め二酸化炭素削減に配慮した運転に心がけること。</p> <p>4. 今年度も住民からの要望・苦情はないが、小さな要望や苦情も対応が悪いと大きな問題となるので、誠意を持って対応し地域住民の理解と協力が得られる施工に心がけること。</p> <p>5. 引続き全従業員が環境意識の高揚に努め、環境保全活動の重要性を自覚し環境負荷低減への活動を継続的に取り組むこと。</p> <p>6. 環境経営システムはこれまで問題なく有効に機能しているので今回も特に変更の必要はないと判断した。</p>

1.3. 取組状況

☆ 社内教育・指導状況と取組結果報告



* 2019年5月28日社内安全大会を利用して、中間審査に向けた1年間の取組結果と今後の本審査に向けた取組み等について報告・説明を行った。



* 2019年9月28日社内安全大会等あらゆる機会を利用して、社長を中心に中間審査の結果報告と来年度の本審査に向けた取組みへの更なる協力指示した。



* 2020年12月24日と2021年1月26日に社内安全大会の席上、上村環境管理責任者と事務局から本審査の結果報告と次回の中間審査に向けた取組みについての説明を行った。
(新型コロナ対策で参加人員を制限して実施した。)

☆ NASネットワークシステムの構築(2020年6月)



* 2020年6月24日ネットワークの不安定性をなくすため会社内にNASネットワークシステムを構築した。このネットワークシステムの構築により社員全員が常時E A 2 1レポート等関係資料を開覧できることとなった。

☆ 低騒音・排ガス基準適合重機の導入・使用

2019年度



○ 排ガス規制作業車両の導入・使用

2019年度



* 作業車について、排ガス規制の車両を導入した。

2020年度



* 社用車を遠隔地の現場に使用するためハイブリッド車両に交換した。



* 社長専用車両としてEV車を導入した。



☆ 環境保全活動状況
○ ロードクリーンボランティア

2019年度



2020年度



* 熊本県とのロードクリーンボランティアに関する協定に基づき、2021年1月6日国道218号(約3km) 県道321号(1.5km)の清掃活動を行った。

○ 道路清掃ボランティア

2019年度



* 2019年9月23日強風により町道勢井の宮・下福良線に散乱した木の枝等を重機等の使用によりボランティアで清掃を行った。

2020年度



* 2020年6月30日の大雨により町道勢井の宮・下福良線への倒木等があり、それらをボランティアで処理した。

○ 森林ボランティア（森林涵養林育成）

2019年度



* 2019年6月18日大津町と熊本県法面保護協会との協定により森林涵養林育成のための下草刈り作業のボランティアに参加した。

2020年度



* 2020年7月20日大津町と熊本県法面保護協会との間で森林涵養林育成のため締結した「広葉樹の森」約3,000平方メートルについて、下草刈りの社会貢献活動ボランティアに参加した。

○ 森林ボランティア（漁民の森づくり）

2020年度

（山都町地区水源涵養林造林地）



* 2020年10月24日、25日の両日、毎年実施の緑川漁業組合主催による森～川～海をひとつと考え、水の源である森林を整備する環境保全活動としての「漁民の森づくり」下草刈り作業のボランティアに参加した。

2020年度

（西原村地区水源涵養林造林地）



* 2020年11月14日毎年実施の緑川漁業組合主催による森～川～海をひとつと考え、水の源である森林を整備する環境保全活動としての「漁民の森づくり」下草刈り作業のボランティアに参加した。

○ 緑川ダムボランティア（わかさぎ卵付きいかだ設置）

2019年度



* ワカサギは、治水を目的とした河川改修等の河川工事により、産卵適地が減少し資源維持に影響を及ぼしていることから、ワカサギの産卵環境の保全や自然繁殖を助長するため人為的な産卵環境のひとつとして、緑川漁業組合からの依頼により、2019年4月22日ボランティアでワカサギの卵付きいかだの組立・ダム湖への設置を行った。

2020年度



* ワカサギの産卵環境の保全や自然繁殖を助長するため人為的な産卵環境のひとつとして、昨年同様、緑川漁業組合からの依頼により、2020年4月20日ボランティアでワカサギの卵付きいかだの組立・ダム湖への設置を行った。

○ 交通事故防止のためのパトカー看板の設置

2020年度



* 警察は、交通安全のため昼夜を問わず取締りを行っているが、限られた車両と人員で常時十分な警戒、監視活動を行うことができないことから、これを補完するため、特に、事故多発箇所に通達違反・事故の未然防止を目的としてパトカーを模した看板設置を警察から依頼されボランティアで設置した。

☆ 大雨災害に伴う佐賀県への物資の支援

2019年度



* 2019年8月27日からの大雨による佐賀県を中心とした広範囲への浸水などの被害が発生、特に佐賀県大町町では油流出により、自衛隊・災害協力企業等180名体制での対応が行われた。当社は、緑川ダム管理所との災害協定締結企業として、緊急に油吸着マットとオイルフェンスを支援しました。

☆ 令和2年豪雨災害に伴う支援活動

2020年度



* 2020年7月20日から8日までの14日間延べ人員35人による熊本県との大規模災害時の支援活動に関する協定に基づき、令和2年度の災害に伴う八代海沿岸及び港湾海岸等の災害関連漂着物等の処理の支援活動に参加した。

☆ 治山工事表彰



* 2019年8月29日災害関連緊急治山事業第16号工事（南阿蘇村）で熊本県治山林道協会長表彰を受けました。

休日出勤・残業時間数一覧表

	従業員数	月												合計	前年度比較
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
2019.4月～ 2020.3月	休日出勤日数	39	24	27	43	63	50	50	46	63	64	50	65	584	
	残業合計(h)	75.5	172	161.5	167	220	334.5	358.5	306	392	445.5	541	744	3917.5	
2020.4月～ 2121.3月	休日出勤日数	43	50	40	59	55	50	41	47	47	49	50	40	571	-13
	残業合計(h)	539.5	468.5	425.5	515	585	605.5	160.5	82.5	146.5	91	182.95	305.5	4108	190.5

* 2019年度を基準とした残業時間の達成率は95.36%